令和 3 年 8 月 31 日（火）作成

全国×まちだ D サミット 2021
～“認知症とともに生きるまちづくり”のはじめかた～
企画書（案）

1.　コンセプト

町田市では、「認知症の人にやさしいまち」の実現に向けて、様々な角度から市民への普及啓発活動を展開してきました。2018 年 11 月 24 日「まちだ D サミット～“認知症の人にやさしいまちづくり”のはじめかた～」を皮切りに 2020 年 2 月 15 日「まちだ D サミット 2～“認知症の人にやさしいまちづくり”のすすめかた」と 2 年に渡るサミットの開催によって、企業、医療福祉関係者、地域団体、NPO、学術研究者等、様々な分野での先進的な取り組みが一体的に発信されました。

さらに、認知症の人もそうでない人も対話を通じて暮らしの様々な場面における現在の町田市の姿をとらえ、課題を共有したことにより、地域の方の認知症に対する理解や支援は少しずつ広がりをみせています。

加えて昨年度においては、町田市で認知症と生きる方々にインタビューをしたものをまとめた冊子「認知症になっても私はわたし～認知症と生きる希望とリアル～」が発行されました。そこには、本人の思いや考え、そこから見える悩みや葛藤等が描かれており、認知症の人の理解を促す新たなツールとなりました。

一方、「町田市いきいき長寿プラン 21-23（町田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画-第 8 期-)」より、「認知症とともに生きるまちづくり」が新たな基本施策として位置付けられました。

このことを契機に、町田市のまちづくりは、より「共生社会」を意識した、若年層、子育て世代、一般企業等の取り組みそのものに介入していく転換期を迎えたといえます。

従って、医療・福祉・介護といった専門分野だけでなく、人々の生活に関わるすべての分野で認知症を正しく理解し、それぞれの立場から出来ることを考え、行動を起こす「認知症アクションアライアンス」の考え方が重要となり、市民や様々な業種が幅広く参加し、つながる広範囲なネットワークとともに、柔軟性のあるまちづくりが求められることとなります。

そこで、今年度のまちだ D サミットは、これまでの取り組みにより日々成長を遂げてきた一つ一つのまちづくりと「16 のまちだアイ・ステートメント」（以下、16 の指標）をリンクさせることで、その姿を可視化していきます。

さらには、まちと 16 の指標の調和について考えることで、時代に合わせた指標の在り方についてもふれていきます。

本企画における最大の特徴は、認知症当事者に企画段階から携わってもらう体制に加えて、全てのセッションオーナーを認知症当事者が担うことにあります。

これは、まちだアイ・ステートメントの 16 番目にある「私たちも認知症の人にやさしいまちづくりの一員です」を具現化した取り組みの一つです。

「このまちに暮らす全ての人々が手を携え“認知症とともに生きるまちづくり”を涵養する」ためにはどうすればよいかについて対話を展開していきます。